

# 国語科学習指導案

日時 令和4年 5月27日(金) 公開授業 I  
学級 岩手大学教育学部附属中学校  
1年C組35名  
会場 1C2A教室  
授業者 中村正成

## 1 単元名

説明的文章の工夫を読もう ～『森には魔法つかいがいる』～

## 2 単元について

### (1) 生徒観

学習者は小学校で様々な説明的文章に触れてきた。説明的文章を理解したり読み深めたりするためにはどのような点に気を付けるとよいか、学習者に自由記述で調査したところ、「『はじめ・なか・おわり』を意識して読む」、「段落の関係を考えながら読む」、「『問い』と『答え』を探しながら読む」、「つなぎ言葉に注目して読む」などが挙がった。

それらを生かしながら、4月下旬から5月上旬にかけて『自分の脳を知っていますか』（伝え合う言葉 中学国語1 教育出版）を用いて、説明的文章における基本的な構成の基本の型や目的に応じた要約の仕方を学習した。学習者は、文章の中心的な部分や付加的な部分に着目しながら内容を把握することができた。

情報に囲まれた実社会では、文章の内容を把握するに留まらず、書き手がなぜそのように表現しているか、また主張を支えるための根拠は適切かといった、書き手の意図や論理の妥当性について評価する力が求められる。小学校や前単元での学習を基盤として、本単元では自分の考えに照らし合わせながら、文章を批判的に読む力も育てていきたい。

### (2) 学習材観

中心学習材『森には魔法つかいがいる』（畠山重篤）（伝え合う言葉 中学国語1 教育出版）

中心学習材である『森には魔法つかいがいる』は、宮城県気仙沼でカキ・ホタテを養殖している畠山重篤氏によって書き下ろされた説明的文章である。海の環境汚染は山にも原因があると考えた氏は、漁師による森づくり「森は海の恋人」運動を展開する。文章は「森には魔法つかいがいる」という言葉を軸に、自身の体験したことをもとに論理を展開していく。自身の体験を時系列に沿って語りながら「森と海は一つである」ということに妥当性があるということを説明しようとしているため、読み手は筆者本人になったつもりで読み進めることができる。また、分かりやすい具体例や図を用いたり、語りかけるような表現を多用したりすることによって、専門用語を用いながらも中学生に分かりやすく説明しようとしている。学習者には、筆者の論の展開の仕方や表現の工夫に気付かせながら、なぜそのような意図で書き進めているかを考えさせたい。同時に、根拠と主張の結びつきの仕方についてもよく吟味し、自分の考えと照らし合わせながら読み進めるよう指導に当たりたい。

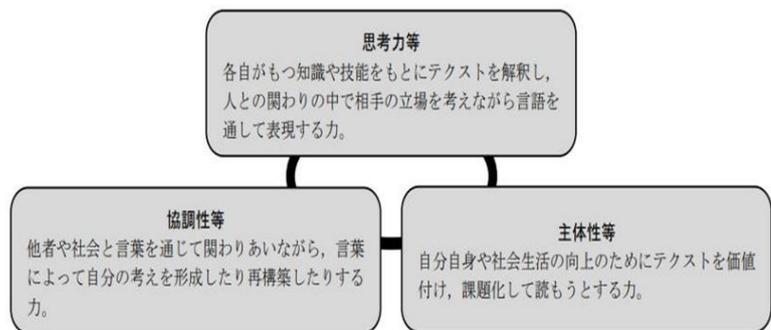
### (3) 教科研究との関わり

本校国語科では育成を目指す思考力等・協調性等・主体性等を右図のように整理している。その育成のためにどのように指導を展開していくかを以下に示す。

#### ① 主体的・対話的で深い学び

生徒が主体的・対話的に学習材を読むためには、作品自体の魅力もさることな

がらそれを読む目的意識が重要である。内容的な面で言えば、今回取り扱う中心学習材は、本校が行っている総合的な学習の時間（「ヒューマン・セミナー」、略して「H・S」）とのつながりが深い。これから1学年はH・Sにおいて地域課題とその解決の在り方について学習していくが、筆者の地域課題に向けたアプローチの仕方や地道な活動を続ける生き方については、H・Sのモデルにふさわしいと言える。実際に数年前に本校の生徒が在学中に氏のもとを訪れ森への植林活動を行い、その活動の振り返りを「H・S論文集『海の水はからかった』」に綴っている。学習者には、今回の単元が自分のH・S学習をさらに深めるものとなるということを意識させると共に、この作品が自分自身や社会生活の向上に寄与するものであることを実感させたい。



また、形式的な面では前述のように随所に筆者の工夫が見られる。工夫の列挙に留まらず、その工夫がどのような意図、特にどんなことを伝える目的でその工夫を施しているのかを吟味させたい。一方で、本文にはよく読むと疑問に思うところが出てきたりもう少し詳しい説明が欲しかったりするところが見られる。説明的文章の優れた書き方の技術を学ぶと同時に、読み手の理解をさらに深めるためにさらに工夫できる場所を探し学習活動を行うことで、さらに主体的に読むことを促したい。加えて、以下に述べる情報技術を効果的に用いることでも主体的・対話的な学びを促したい。

## ② 情報・情報技術の効果的な活用

これまでも国語科では、自分の考えを他者と交流する際に模造紙などの一枚の紙にグループの考えをまとめさせるような活動を行ってきた。本単元では、グループでの交流を、ロイロノートの共通ノートを用いて行うことを試みる。それぞれのタブレット上で同時に協働的に作業を行うことができるが、思考ツール等でグループの考えをまとめる際に、自分の考えとは異なる操作を他者が行うことがある。この瞬間に、「なぜそのように考えたのか」という意見のぶつかり合いが生じる。ここで、教科書本文に立ち返らせ、それぞれの意見を徹底的に話し合わせながら、学習者を更なる深い読みに誘いたい。育成を目指す協調性等にあるように、他者と言葉を通じて関わり合うことを通して、自分の考えを再構築させることを狙いたい。

また、中心学習材には専門的な用語や内容が多く含まれるが、一人一台端末によって、学習者が疑問に感じたときには即座に調べることができ、学習材についてより理解を深めることができると思われる。単元の第4時では本文への疑問点や課題点について調べる場面があるが、氏の講演の内容や様々な研究者の文章やデータに当たることができ、学習者のニーズに応じた調査が容易にできると思われる。

加えて、これまで紙面で書いていた振り返りシートもタブレット上で行うことで、授業で用いた学習シート等をデータとして加工したり、単年のみならず学年をまたいで蓄積したりすることができる。学習の目的を見極めながら、学習者の深い学びを促す目的で使用させていきたい。

## 3 単元計画

### (1) 単元の目標

#### 【知識及び技能】

- ・ 事象を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。((1)ウ)

#### 【思考力、判断力、表現力等】

- ・ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(C(1)エ)
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。(C(1)オ)

#### 【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

### (2) 本単元における言語活動

文章を読み、文章の書き方について理解したり考えたりしたことを文章にまとめる。

(関連:【思考力・判断力・表現力等(2)ア】)

### (3) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 事象を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	① 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ)	① 他の学習者と共に文章の展開の仕方や効果について考え、粘り強く文章を読もうとしている。

### (4) 指導の計画

次	時	学習内容	関連する評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	1	(1) 単元の見通しをもつ。 (2) 中心学習材を読み、文章の形式・内容の両面から感想を書く。	①			(学習課題)「筆者は何を伝えようとしているか」について、文章にある様々な情報を抜き出して捉えている。【学習シート】

		(3) 本文の内容をつかみ、要旨を捉える。			
2	2	(1) 文章の展開の仕方について考える。		①	(学習課題)「四つのまとめにはそれぞれどのような価値があるか」について、段落のつながりを意識しながら考えている。【学習シート】
	3 本時	(1) 文章の工夫を指摘し、その効果について考える。		①	(学習課題)「この文章で最も効果的な文章の書き方の工夫は何か」について、交流を通して読み深めている。【学習シート】
	4	(1) 文章への課題点や疑問点を挙げ、それについて解決するためにタブレット端末を用いて調べる。		②	(学習課題)「文章の課題点や疑問点について調べて、文章をさらに理解しよう」について、タブレット端末などを用いながら調べて理解を深めようとしている。【学習シート】
	5	(1) 調べた内容を交流する。 (2) 筆者の論の展開について、自分の考えをもつ。		②	(学習課題)「筆者の論の展開の仕方についてあなたはどうか」について、これまでの学習をもとに文章に著している。【学習シート】
3	6	(1) 他者の意見に耳を傾けながら、単元を振り返る。		② ①	(学習課題)「クラスメイトの考えに触れながら、単元を振り返ろう」について、これまでの学習の成果を振り返っている。【OPPシート】

#### 4 本時について

##### (1) 指導目標

読み手を納得させるための筆者の文章の書き方の工夫とその効果に気付かせる。

##### (2) 評価規準

##### 【思考・判断・表現】

① 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。

(C (1) エ)

##### (3) 授業構想

学習者はこれまでに序論・本論・結論それぞれのまとめについて内容を捉えるとともにその役割について考えてきた。また、前時までに本文の書き方の工夫を一人読みで考えた。本時は、その一人読みをもとに協働的思考を通して、筆者が読み手を納得させるための工夫に気づき、その効果について考える時間である。

導入では、前時までの学習を振り返り、一人読みで多く採り上げられた筆者の工夫を全体で確認し、学習課題を確認する。

展開前半では、導入で採り上げた書き方の工夫の効果が最も効果的なのはどれかを、グループで考える。グループでの協働的思考の際は、ロイロノートの共有ノート機能を用いる。それぞれの筆者の工夫について、「くまでチャート」や「くらげチャート」、「フィッシュボーン」などの思考ツールを用いてその工夫の意図や効果などをまとめさせ、順位を付けさせる。ランキング化の過程において、順位付けに意見の相違があると予想されるが、このときになぜその工夫を上位とするかを、その工夫の効果に着目させて討論させたい。机間巡視においては、どんな工夫を挙げているかに留まらず、議論がその効果に及んでいるかに注意しながら適宜助言を与えていく。

展開後半では、グループでの話し合いについて全体で確認する。グループ間でランキングに相違があると思われるが、なぜその工夫を上位としたかをその根拠を発表させたい。単に「読み手に分かりやすく伝えようとしている」に留まらず、どんなことを伝えようとしてその工夫を行っているかについて議論させたい。筆者の主張や「森には魔法つかいがある」という言葉の意味に着目させ、この文章を通して筆者が何を伝えようとしているかに立ち返らせながら、自らの主張を納得させるために様々な工夫を施しているということに気付かせたい。

終結では、グループや全体での学びをもとに、順位付けに自分なりの根拠をもたせながら自分自身で順位付けをさせる。そして、本時で学んだ文章を書く際の工夫とその効果の関係について振り返らせたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 5	<p>1. 前時までの学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【学習者が一人読みで気づいた書き方の工夫点】</b></p> <p>(あ) ⑱～㉔などで鉄についての<u>分かりやすい具体例の提示</u>をしている。</p> <p>(い) 本論2で、<u>専門家の意見の提示</u>をしている。</p> <p>(う) <u>自分の体験を根拠</u>にして論の展開している。</p> <p>(え) ⑱の書き出しのように、<u>語りかけるような書きぶり</u>をしている。</p> <p>(お) p 94の図のように<u>文章の内容を分かりやすく視覚的に表現</u>している。</p> <p>(か) 筆者の体験の<u>時系列に沿って書き進めている</u>ため、筆者と同じ気持ちで読み進められる。</p> </div> <p>2. 学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に提出箱に提出されたものから、特に多く採り上げられたものを提示する。</li> </ul>
展開 35	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【学習課題】 最も効果的な文章の書き方の工夫は何か</b></p> </div> <p>3. 効果を考えながらグループで工夫点を順位付けする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【前述の工夫点の意図の例】</b></p> <p>(あ) 生物にとっての<u>鉄の重要性</u>を読者に印象付ける。</p> <p>(い) 専門家の意見を出すことで、<u>森と海が結びついていることを科学的にも妥当性があることを伝えよう</u>としている。</p> <p>(う) <u>森と海が結びついていることが実際にある</u>ということを伝えようとしている。</p> <p>(え) 読み手にとって<u>難しい鉄の重要性</u>を同意を得ながら分かりやすく伝えようとしている。</p> <p>(お) 言葉だけでは説明しにくい<u>フルボ酸のしくみ</u>を視覚的に理解できるように読み手を助けようとしている。</p> <p>(か) 筆者の体験と思考を追っているため、読み手に<u>筆者の考える筋道が妥当である</u>という印象を与えている。</p> </div> <p>4. グループで考えた順位を提示し、なぜそのように考えたのかを交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【説明的文章における工夫の意図】</b></p> <p>○ 読み手に興味を持たせたり、話に引き込んだりする意図。</p> <p>◎ 自分の主張に説得力があるということを読み手に伝える意図。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロイロノートの共有ノートを用いて、任意の思考ツールを用いながら工夫の効果をまとめさせ、協働で工夫点を順位付けする。</li> <li>意見の相違があった場合には、その工夫によってどんな効果があるのかに着目してランキング化するように促す。</li> <li>どんなことを伝えようとしてその工夫を行っているかを考えさせる。</li> </ul>
終結 10	<p>5. 交流を通して、根拠をもちながら自分自身で工夫点を順位付けする。</p> <p>6. 学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【期待する学習者の振り返り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆者は、読み手に「森と海が結びついている」ということを納得させるために、自分の体験や客観的な根拠など様々な面から書き方を工夫していた。自分が実際に意見文を書く時も、何を伝えるかははっきりさせながら工夫して文章を書いていきたい。</li> </ul> </div> <p>7. 次の学習内容を確認する。</p>	<p>思○ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。<b>【学習シート】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜそのようなランキングにしたかを記述させる。</li> <li>本時の学習内容を振り返るとともに、国語の授業以外でもどんな場面で生かせそうかを考えさせたい。</li> </ul>

5. 参考文献

「読み」の授業研究会著 (2016) 「国語力をつける説明文・論説文の『読み』の授業」 明治図書